

怪しい銃聲がまだ私の耳から離れなかつた。そして便衣隊か馬賊の仕業だと極め込んでしまつた。長王以哲の司令部の方へ歩きながら、T大尉は武勇傳の一句さりを演じた。

「ある兵は高梁島の中で、牛のやうに大きな支那兵を縛り上げました。ちゃんと捕縄を準備してゐたのも用意のいい男です」

「ある兵は支那兵を刺したとき剣の柄が折れたので、早速と手拭で銃に縛りつけ、それで又一人を刺し殺しました」

「M上等兵は禪宗坊主ですが、隣兵が斃れたとき、それを撃つて敵を見てゐたので、上等兵憤激のあまり飛び出して行つてその支那兵を突き刺しました。銃剣が背中に突き出たほどです、そして歸つて来て、仇は取つてやつたぞ上佛せい！ といつたら、その兵はかすかにうなづいて、が絶へました」

新屋の真中に大きが圓卓子が並び、
しげに坐つてゐる。
王旅長は、この卓子の周りに團
長あたりを集めて、この時はこ
う、あの時はあと、密議を凝
したことでもあらう。——通り
る時はこういつた工合にといふ
こと。
王以哲は、あの騒動の真最中、
早く錦州の方へ遁けて行つた
乱石山あたりから、満鐵線を西
へ越して、新民府へ出たものら
しい敗残兵にもその地點を越して錦
州へ集るやう命令したらしい。

慢性蕩病ヲ根治スル針灸マ
スマーリク電氣療法殊ニ神經
過弱人病等
ヨンス市九月七日街八〇

(3) 小隊長が軍樂の音を便りに、兵舍へ入つて見ると、支那兵の軍樂隊がガタ／＼震へながら君ヶ代を奏してゐるのであつた。君ヶ代の手前、どうすることも出来ず嚴肅な氣持で姿勢を正したが、樂が終ると彼等を解放した、樂手達は匍匐やうにして通けて行つた。

私は練兵場の中に、張學良の閥兵臺といふものを眺めながら彼が一萬三千の北大營兵の前に諸將を引具して現はれ、軍樂の音に得意の胸をそらしてゐた勇姿？と思ふと共に、君ヶ代を奏して助命を請ふた軍樂隊の末路を思ふて可笑しなかつた。

4、王以哲の司令部

の
所

そこが日本軍の守備が薄いとみたのであらう。王の遁げた翌る夜であつた。開原から汽車で来た五十名ばかりの守備兵が、この驛へさしかかると丁度そこを支那軍が真っ黒になつて線路を越そうとするところであつた。

CASA FOTOPTICA

S.PAULO - RUA SÃO BENTO, 45

REVELACOES - COPIAS
FILMS - AGFA - KODAK - ZEISS
LINDOS CARTÕES POSTAIS DA CIDADE
ADAPTACAO DE OCULOS

そこが日本軍の守備が薄いとみたのであらう。

王の遁げた翌る夜であつた。開原から汽車で来た五十名ばかりの守備兵が、この驛へさしかかると丁度そこを支那軍が真っ黒になつて線路を越そうとするところであつた。

混戦の中に、蛇と銅切りにしたやうに、支那軍の半ば線路を越したが、半は後へ退いて行つた。それは王の敗殘兵で、團長級が率ひてゐたといふことであるが、それでゐたといふことである。

ふことが、あとでわかつた。
王以哲の住宅を襲つたときは、革
抜けの殻であつた、併し扉も鍵も
の抽斗も、鍵のあるところは鍵を
鍵を差してあつた。机の中は
整然として紙一枚もやがんであ
なかつた。たゞ寝台の上に女の
ハンド・バッグが口を開けたま
うであつた。

王はその日のあることを覺悟してゐたのかも知れなかつた。
鍵穴に鍵を差して去つたとい
ことから見ても、ぬかりなく四
意してゐたのであつたらう。
司令部の圓卓子のある次の部
屋が、旅長の事務室である。
そこは今守備兵の士官室にな
てゐる。

「意氣半天」の大文字を掲げて
ゐるのも、王以哲の部屋だけに由
来である。

ブルル科アに反筋持一〇 反のう座用ふし よりもは恋机深